

令和3年度第3回調布市スポーツ推進審議会議事録（要旨）

日 時 令和4年2月21日（月）

午後6時30分

会 場 オンライン開催

○事務局 本日はお忙しい中、皆様ありがとうございます。調布市スポーツ推進審議会条例に照らし合わせて、半数以上の5名で、本審議会が成立することをまず御報告させていただきます。

オンライン開催2回目ということで、操作に手間取ることもございますが、御了承ください。

では、早速ですけれども、議事の進行を会長、お願いします。

○会長 では、オンラインということで、途中で多少トラブルが起こる可能性もありますけれども、そこは適宜対応していきたいと思います。よろしくどうぞお願いいたします。

今日は、東京都で1か月ぶりに1万人下回ったというニュースが先ほど入ってきましたけれども、そうは言っても、まだまだ厳しい状況が続いていると思っています。委員の皆さん、3回目の接種は終わったのでしょうか。私の仕事仲間も先週の金曜日に3回目が終わったということで、ちょっと一安心ですなどと言っていました。

話が変わるのですけれども、今、映画で「ウエストサイドストーリー」をやっています。前回は1961年にブロードウェイで発表になったみたいなのです。私が中学校1年生か2年生のときに、あの映画を姉に連れていかれて見た記憶があります。最初の指を鳴らすのをやったら、「おまえ、不良になるからやめろ」と父親から怒られたことを覚えていますけれども、映画は、田舎にいた私にとってはすごく衝撃的な、アメリカはどんな国なのだろうと思ったという記憶がありました。つい先日、何十年ぶりに映画を見てきたのですけれども、もう一回見たいと思っているところです。

「ウエストサイドストーリー」、根本的には、なかなか共生社会ができてこないという永遠のテーマが描かれているかもしれないと思いながら見てきました。今回の北京オリンピックについても、なかなか融合できないところもあるのかもしれない。片方では、平和の祭典というオリンピックをしながら、すぐ横では今にも戦争が起こりそうな状況というのは何だろうなと思いながら、2週間ばかり観戦させていただきました。

今日のテーマとちょっとずれてしまいますけれども、障害者スポーツというくくりで討議に入っていきたいと思います。

まず、事務局より資料の説明をお願いしたいと思います。よろしくどうぞ。

○事務局　ありがとうございます。

最初に、本日傍聴者はいらっしゃいませんでしたので、このまま進めさせていただきたいと思います。

皆様のお手元の配付資料の確認からさせていただきます。今日の次第と、資料1が障害者スポーツの振興について、資料2が都民のスポーツ活動等に関する調査結果と、障害者スポーツに関する意識調査の結果の速報がつい最近出ましたので、そちらの写しのもの。あと、資料3が、皆様には全文送らせていただいているのですけれども、第3次スポーツ基本計画の中間報告、今日はその中でも障害者スポーツに特化した部分を御説明させていただきます。資料4が東京都パラスポーツトレーニングセンター施設運営計画、こちら全て送らせていただいておりますが、大丈夫でしょうか。では、資料の確認を終わります。

○会長　ありがとうございました。

今、説明がありましたけれども、たくさんの資料、昨日のニュースでも、都の速報のことを何かテレビで取り上げていましたので、ああ、このことについて明日協議をするのだなと思いながらテレビを見ていました。資料は皆さん、大丈夫ですね。

では、事務局から障害者スポーツの振興についてということで、これから説明をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

○事務局　まず資料1の障害者スポーツの振興についてです。今、先生からもお話しいただいたように、先日1月21日に、東京都が速報値ということで発表いたしました。昨年3月に審議会を開催した際には、令和2年実施のものを報告させていただきましたが、今回2つほど調査がありまして、1つは、都民のスポーツ活動に関する実態調査、令和3年10月の実施結果の報告。もう一つが、障害者スポーツに関する意識調査、こちらは6月と9月に実施したものの速報になります。

まず、都民のスポーツ活動に関する実態調査についてですけれども、有効回収標本数は1,716標本ということで、都内に居住する18歳以上の個人を対象とさせていただいています。こちらについての主な調査項目は、都民のスポーツ実施率、パラスポーツに関心がある都民の割合ということです。

まず、都民のスポーツ実施率が昨年度よりも8.5ポイント、ここ最近ではかなりの伸び

率で68.9%となっております。スポーツの運動を実施した理由は、健康維持・体力づくりのためがほぼ73%、あとは運動不足解消のため、これは理由を幾つか選べるのですけれども、66.2%となっております。こちら、楽しみや気晴らし、気分転換というのがその次に来まして、57.8%と続くような形となっております。また、この1年間に実施したスポーツや運動は、昨年度と同様、ウォーキング、散歩が8割を占めるような結果、あとは体操といった身近にできるもの、気軽にできるものが運動として人気になっています。

実際にスポーツをしていた方に対して、スポーツを始めようとしたきっかけは何ですかという問いについては、外出機会が減って気分転換をしたい、または運動不足を解消したいと思ったためというのが77.9%ということで、コロナ禍においての特殊事情も大きく作用したものかなというところがございます。

続いて、障害者のスポーツに関する意識調査の速報結果になります。こちらは都内に居住する18歳以上の障害者の本人、または同居する家族に障害者がいる方ということで、今回1回目、2回目を6月、9月と実際行っていて、1,300ちょっとの標本があります。主な調査項目は、障害者のスポーツ実施率ですけれども、前回よりも3.5ポイント上がって35.4%。上がってはいますけれども、2019年に比べてはまだ下がっている状態。全体としてやはり高いとは言えない状態になっています。

スポーツや運動を実施した理由は、やはりここも健康・体力づくりのため、運動不足解消のためが大きく理由としては挙げられています。こちらでも実施したスポーツについて、ウォーキング、散歩が77.2%、体操が27.7%と1、2位を占めている状態です。

その下にある、パラスポーツに関心がある都民の割合は、最初の都民のスポーツ活動に関する実態調査の項目になりますが、こちらについては、今回パラスポーツに関心がある、やや関心があるとした都民の割合が前回調査よりも9.4ポイント増加しているという結果になっています。こちらについては、東京2020パラリンピック競技大会を観たからというのが68.7%、また、メディアでの中継・配信・報道を観たからが43.3%、アスリート自身に魅力を感じたからが21.5%となっております。この東京2020大会の影響が大きく出ている結果となっております。

このように、実際には、昨年度よりは両方とも成果としては少し上がっているのですけれども、実際、東京2020大会の観戦有無、変化・影響については、資料2にございます。東京2020オリンピックの観戦有無は、障害当事者と家族の方を対象にした調査の中の項目になります。実際に大会前には、オリンピックを観戦する予定ですか。観戦する予定があ

るが30.5だったのですけれども、オリンピックを観戦しましたかと9月の段階では51.1%と上がっております。

また、パラリンピックについての観戦の有無、実際6月の段階では23.4%が観戦する予定だったのが、大会後は41.3%観戦しましたというところです。こちらの項目の中に、実際に観戦された方の中に何らかの影響があった、例えばスポーツや運動を新たに始めようと思ったとか、さらに頻度を増したとか、そういった形で何かしらパラやオリを観たというところで、影響があった方というのは、オリンピックで約44%、パラリンピックで約49%となり、多くの方が大会にいい影響を受けたという形の調査結果となっております。

まず、こちらが今回の速報値の結果でございます。

続いて、資料1に戻ります。それに対しての国の動きになりますが、皆さんに送らせていただいている資料は全文入っていますので、今見ていただいている画面の中がピックアップした障害者スポーツの分野の部分になります。スポーツ庁の第3期スポーツ基本計画中間報告が12月20日に発表になりました。こちらのついての項目で、スポーツを通じた共生社会の実現という項目がございます。

こちらについて、まず政策目標にありますように、「誰もが「する」「見る」「支える」スポーツの価値を享受し、様々な立場・状況の人とともにスポーツを楽しめる環境の構築を通じ、スポーツを軸とした共生社会を実現する」とございます。

今後の政策目標についても、「障害者がスポーツを通じて社会参画することができるよう、障害者スポーツの実施環境を整備するとともに、一般社会に対する障害者スポーツの理解、啓発に取り組むことにより、人々の意識が変わり、共生社会が実現されることを目指す」とございます。

具体的な施策についてですけれども、アにありますように、様々な場における障害者に対するフォロー等が行えるよう、障害者を含む一般競技団体の指導者、スポーツ推進委員、現役の教員等に対する障害者スポーツ指導員資格の取得を促す。

イに関しては、障害者スポーツに係る情報発信に充実、ボランティア参加の促進等を通じ、一般社会における障害者スポーツの理解促進を図る、一般社会における障害者スポーツの理解促進を図る、障害者スポーツを体験する機会の創出を図るとございます。

ウには、障害のある人とない人が一緒にスポーツを行えるよう、パラ教育の事例の収集や情報提供を行うとともに、地域スポーツ環境の基盤強化や一般と障害者の連携を推進する。

エに関しては、地方公共団体、障害者スポーツ協会及び障害者スポーツ競技団体において、一般のスポーツ推進体制との連携等による障害者スポーツの推進体制の整備等を図る等々、目標として掲げているものでございます。

そういった中で資料が続きますが、調布市における取り組みとして、この審議会でも幾つか既に紹介させていただいておりますが、まず、調布市障害者スポーツの振興における協議体については、参加団体のところがございますように、福祉分野、スポーツ分野の関係団体が一堂に会しまして、そこに東京都障害者スポーツ協会、東京都、事務局として私たちスポーツ振興課と障害福祉課が入って、障害者スポーツの振興という目的の下に連携の可能性を見出して、課題解決に向けて話合いや事業を行っているものでございます。

実際に、筑波大学准教授の澤江先生をお呼びして講習を行ったり、実際に市内の作業所であるファーストステップへ障害者スポーツ協会の指導員を派遣して、通常のウォーキングプログラムをいかに楽しいウォーキングにするか、より運動効果の高いものにするかという指導を実施しているものになります。協議体は、パラリンピックを迎えるに当たって、東京都のモデル事業として令和元年度から設置しています。今も東京都の実務者会議に定期的報告させていただいて、来年度、東京都が調布市をモデルとした形で、都内の各自治体にこのような取組を広げるため、補助金制度も創設して、来年度以降もこういった協議体が各地で行われるように東京都としても働きかけを行う予定となっております。

続いて、障害者スポーツ体験会です。こちらも皆様に御報告しております。様々な団体の皆様に強力いただきながら、毎年行っているものです。会を重ねるごとに関係団体、協力団体も増えてきまして、メニューも充実させていただいているところでございます。実際に障害のある方にも参加いただき、子どもから御高齢の方まで様々な方が楽しみながら体験をして、パラスポーツの難しさを経験することで、選手たちのすごさとか、競技に興味を持っていただくきっかけづくりとなっています。

武蔵野の森総合スポーツプラザが会場になっているのですが、プラザとの共催事業として行っております。なので、調布市内のみならず、地域全体の障害者スポーツの振興と発信するということで、事業として寄与しているものになります。

ボッチャ競技の振興。こちらも以前、審議会でお話ししました、C委員を中心とするスポーツ推進委員の皆さんがボッチャの普及活動を行っています。この間も第一小学校で子どもたちの授業にお邪魔して、スポーツ推進委員の皆さんがボッチャの出前講座みたいな形で事業を行っていただきました。

そのほか、「ボッチャで遊ぼう」という動画をつくっていただいたり、コロナ禍の前ですけれども、スポーツまつりでのボッチャ体験を行っていただいたり、そうしたところでボッチャの普及活動をしていただいております。

今日欠席されておりますが、E委員の調和SHC倶楽部の「障がいのある人もみんなで楽しもう交流会」もボッチャの交流会として長年市内の障害のある方、ない方、皆さん集まって実施していただいております。それを調布市の予選会として、優勝・準優勝チームが東京都市町村ボッチャ大会にも出場しているという経緯がございます。

また、2つ目の丸ですけれども、日本車いすバスケットボール連盟、日本ブラインドサッカー協会との連携。車いすバスケットボール連盟さんとは、令和元年に協定を締結しまして、様々な連携した取組を行っております。また、日本ブラインドサッカー協会とも講演会、体験会など連携した取組を実施しているところでございます。こういった様々な取組を行いながら、東京2020大会を契機とした障害者スポーツの振興、引き続きより内容を充実させて実施していこうというところでございます。

その他関連事項にございますが、かつてD委員が1年間いらっしゃった味の素スタジアムの調布庁舎、多摩障害者スポーツセンターさんが一時的に移転されていらっしゃった場所ですけれども、あそこの跡地利用について、これまで調布市も注視しているところです。このたび、2月9日に東京都がパラスポーツトレーニングセンター施設運営計画の策定についてというところで発表し、ホームページ上に公開されているものです。

その中で、施設を「東京都パラスポーツトレーニングセンター」として名づけたとございます。以前、審議会でも、未来の東京戦略ビジョンで御説明して、パラリンピックのレガシーとして何かその場ができるようになるらしいですという情報共有はさせていただいているのですけれども、この間、実は調布市としても、近隣市を巻き込んで、以前、多摩障害者スポーツセンターさんがあったときのような、地元の障害のある方が使えるような施設に何か機能を残していただきたいという要望は継続して行っていたところでございます。

そういった中で、今回こういった概要が出てきたというところで、私たちも大変喜んでいるのですけれども、まず所在地は味の素スタジアムです。正面入り口の真裏になります。Dさんは懐かしいと思われるかと思いますが、これが入り口です。中には体育館とか会議室などがあり、障害者スポーツセンターがありましたので、バリアフリーがばっちりされている状態です。国立に戻られてからここまで、全く何も使われていない。休眠施設とし

て非常にもったいない状況になっておりました。

ここの施設に求められる機能として、赤羽にありますナショナルトレーニングセンター、これはトップアスリート専用の施設でございますけれども、今回ここを競技力向上のための練習の場にするというのがまず機能の1つとしてございます。パラスポーツの次世代選手の強化育成等に安定的に利用できる場ということで、こういった機能を持たせる。もう一つは、障害者がスポーツのレベルに関係なく利用できる場、我々はここを非常に重要視していたところでございます。

施設運営の基本方針のところ、(2)番目が、障害がある人もない人もパラスポーツに親しむことができる普及振興の場としても使わせていただける。障害のある人、ない人が一緒にスポーツを取り組める場とするとか、誰でも参加可能なパラスポーツ教室の開催、都民にパラスポーツの普及振興を図る場とする。あとは、障害のない人がスポーツの取組の場としても活用していくといったかなり広い視点での活用計画が出されているものでございます。

施設の構成と利用方法、これもいろいろとこんな施設があるというところですが、体育館、トレーニング室、多目的室、小多目的室、あとは小体育室、多目的スタジオ、集会室A、B、Cとか様々な施設がありまして、この配置も、Dさんがいたときは、ここで私たちが体験会などをさせていただきましたが、こういったところをそのまま使えるような形で東京都としては計画しているというところなんです。

実際に利用イメージとしても、夜間とかは競技力向上で、恐らくチームや、個人で利用するアスリートの人たちの練習の場になってくるのですけれども、平日の午前午後や休日ちょっとだけとか、スポーツ教室だとか、何かしらパラスポーツ、レクリエーションで利用ができるという案が出てきております。

スポーツ教室の実施イメージも、パラスポーツの競技体験とか、パラスポーツの魅力を普及するものとか、障害種別の程度に応じて誰でも、パラスポーツをはじめ、教室を開催しますとか、そういったところでの方針が出ているところです。

実際、調布市も作業所等連絡会だとか、障害児・者親の会の方からの要望も継続してあるところでございますので、調布市としては非常に期待の大きい施設展開というところで、今後また注目していきたいと思っています。

こちらが今後のスケジュールで、今年の6月頃、指定管理者募集開始、決定するのが12月、来年3月には開業の予定となっております。

いろいろと駆け足でしたけれども、以上が障害者スポーツのところでの主な説明になりますが、最後、こちらを御紹介させてください。調布市の応援アスリート・有安諒平さん、この方は夏のパラの大会にも出ていらっしゃいました。パラローイング、ボート競技で活躍されましたけれども、その後、調布市にも表敬訪問にいらしたときに、実は北京も狙っているのですと言っていたのですが、北京での日本代表クロスカントリースキー視覚障害者部門日本代表として、このたび選出されました。調布市として今、応援企画ということで様々な企画を実施準備中ですが、ぜひ皆さんも、クロスカントリースキー視覚障害者部門の有安諒平さんを応援していただければというところでの御紹介でございます。

説明は以上になります。

○会長 ありがとうございます。今、資料1を中心に、そのほか補足ということで使用しながら説明いただきましたけれども、まず何か御質問はございますか、確認したい点はいかがでしょうか。

○D委員 障害者スポーツの振興についてというところで、資料1の実態調査で、週1回の運動実施率が若干上がっているのですが、今回と以前やったのと質問項目が若干変わっているのです。ですので、いろいろな報告を聞いていると、そこはあまりうのみにできないところがあるので、そこは一旦共有させていただきたいと思います。

○会長 ありがとうございます。私も今、特別支援学校に勤務しているのですが、身体に障害とか持病を持っていらっしゃる子どもさんたちは、今、予防のために学校においでにならない方も結構いらっしゃるのです。少なくとも3月6日までは学校へ行きませんという方もいますので、この2年間のデータについては、異常の中での結果なので、今までと単純には比較できないものが多いのだらうと思います。ありがとうございました。

あと、来年度の市の政策予定として、スポーツ推進計画の中に、障害者スポーツの振興というのが大きなテーマとして入ってくる、いわゆる共生社会の充実を図るためということも含めて、残り30分ほどしか時間はありませんけれども、それぞれ何か思うこと、あるいは提言も含めて言っていただければなと思っています。

それから、D委員は、前回eスポーツについて皆さんでいろいろお話しをしたのです。もし障害者スポーツの中にもeスポーツに絡んでのお話とか情報、あるいは願いとか、そんなことがありましたら、そちらの切り口からも御発言いただければと思います。

では、皆さん、どうぞその前で手を挙げていただければ発言できますので、よろしくお

願いたします。——いかがですか。では、D委員、お願いします。

OD委員　　今、国で第3期のスポーツ振興が生まれて、現在で言う日本パラスポーツ協会、以前は日本身体障害者スポーツ協会なのですが、こちらでも2020年に、2030年ビジョンという形で実際にホームページに出しているのですが、そこで障害者スポーツの振興について発表しています。その中でミッションが幾つかあるのですが、そちらを一回提供というか、そこでお話しできたらと思います。

まずは、全国障害者スポーツ大会が秋に、国体の後にあるのですが、そちらの大会を要として、スポーツの普及と振興の活動にしていくような形で目指していくところが、まず1点目です。

2つ目ですが、学校との関係ですが、学校での体育の見学者ゼロを目指すという形で出しています。特別支援学校とか、そういう学校でも体育はあるのですが、一般校で障害が少しある子という、どうしても見学が出てきてしまうので、こちらのミッションの中では、そういった子たちにも身体を動かしていただきたいということで、体育見学者をゼロと言っています。あと、障害者スポーツセンター、都道府県の障害者スポーツ協会と連携してやっていきたいと思いますというところがあります。

あともう一つが、指導者の数の拡大もミッションの1つとして挙げています。実際に、地域で障害を持っている人たちがスポーツをしようかなと思ったとしても、それを指導する方が少ないとなかなか実現できないだろうということと、あとは普及という意味も込めて指導者の質の向上と数を増やしていこうというミッションに入っています。

あとは、施設ですが、いまだに車椅子ですと床に傷がつくとかというところで、まだまだそこが改善できていないところがあります。ですので、こちらでも国の振興の中で、必ずそういった人たちも受け入れていくような形で入っているところです。

うちの東京都障害者スポーツ協会もそうなのですが、日本障害者スポーツ協会、今は日本パラスポーツ協会なのですが、できないのではなくて、やらないだけだと感じながら、そういった意味で、2020年がいいきっかけで、今、障害者スポーツの普及が進められていますので、一応御報告させていただきたいと思います。

あと、うちの東京都障害者スポーツ協会としても、今回の2020がありましたので、引き続き普及の意味も込めて、行政の中でもスポーツと福祉の分野ががっちり重なって、あとは地域のスポーツ推進委員だとか、そういった人たち、あとは今回のような審議会の皆さんもそうですけれども、しっかりと一丸となって進めていく。理想が、町なかで障害を持

っている人たちが散歩でもいいですし、ランニングをしているとか、そういった部分を見られる、まずそれが第一歩だと思うのですけれども、そういった人たちが公共施設に行つて運動する。最終的には、公共施設の中で障害を持っている人とない人が一緒にスポーツを楽しむ環境をつくるのが理想なのかなというところがあるので、いろいろな施策もあるのですけれども、そういったところを目指していければいいかなと思っています。

長くなりましたが、以上です。

○会長 ありがとうございます。それぞれがきっかけとなって新しい一歩を進んでいければと思うのですけれども、先ほど5年度4月に開業するという新しいセンターのお話がありました。自分などが思うのに、散歩の通り道にふらっと寄つて、皆さんがやっているのを見るだけでいいと私は思うのです。日本人は真面目だから、〇〇教室とか〇〇見学会と銘打ったものをつくってしまつて、さあ来てくださいとやつてしまうと敷居が高くなる。そうではなくて、ふだん歩いている人たちが、何かやっているみたいだねと。そこに10分でも15分でも座つて見ていただく、そういう輪が広がっていければいいのかなと。ありがとうございます。

では、スポーツ推進委員の立場でボッチャ大会とか交流会をやつていらっしゃいますけれども、C委員から何か障害者スポーツについて思いを言つてください。

○C委員 こんばんは、Cです。ボッチャに関しましては、出前授業だとか、そういったことでかなりの回数を重ねております。そんな中で感じるのは、同じ障害者スポーツをやるところでも、障害者だけでやるのではなくて、ボッチャなどは特に小さいお子さんからお年寄りまでみんなできるスポーツなので、障害者と分け隔てなく混ざつてチームができるような形に持つていけるのがいいのではないかと感じています。

実は私、ドッジビー協会の関係のこともやつておまして、日本ドッジビー協会で、昨年11月に、駒沢体育館で障害者を対象とした大会が初めて開かれたのです。それまで健全なお子さんたちの大会が主だったので、ユニファイドというクラスをつくりまして、そこで障害者と健全者が混じつたチームがそのときは4チーム出てきまして、実際に試合をやつたのですが、障害は精神障害の方です。ホイッスルの大きい音を出したりするとおびえてしまつたりするお子さんがいたのですけれども、あと、健全者が今当たつたから出るのだよとサポートしながら一緒に楽しい試合ができたので、ぜひそういう形になつていくといいのかなと思っています。

私は以上です。

○会長 ありがとうございます。

では、先ほど学校の話も出ましたけれども、B委員から、学校現場として特別支援学級等々もそれぞれあるかと思うのですが、何か感じていらっしゃるがありましたら、御発言をお願いします。

OB委員 今、オリンピックがちょうど始まって、また昨年オリンピックがあつて、多くの生徒がオリンピックの後にパラリンピックを見ているというのが現状だと思います。実際に学校で会話をしているのもあれば、「俺たちとは違うんだよな」と言って考えている生徒もいるのかなと思っております。でも、本校は特別支援学級もありますので、特別支援学級の子どもと通常級の子どもたちが一緒に活動できるとありがたいと考えています。

今、コロナの影響で、実は多摩のバスケットボール大会、特別支援の生徒たちが集まるバスケットボール大会、それからマラソン大会は、この2年間全部中止になってしまいました。その中で何が起きているかという、教員の異動がありますので、特に特別支援の先生方というのは、比較的早い回転で動いていきます。ですから、2年やらないと、3年目が本当に運営できるのという疑問がありました。今年は多摩のバスケットボール大会ができなかったので、とにかく調布市でやろうと。子どもたちの楽しみ場としてバスケットボール大会をやろう、ほかの学校と一緒にやろうという形で検討し、管理職の立場からで、教員が仕事を忘れないために覚えてもらおう、確認をしてもらおう、来年実際に始まってまたできるよという形で依頼して、大会運営をさせることができました。ですから、そういう生徒たち、パラリンピックなどでもそうだと思うのですが、大会運営の大変さ、苦労を実感しています。また何か協力できることがあれば、どんどん協力していきたいと思っておりますので、何かありましたら知らせてください。よろしくお願いたします。

○会長 ありがとうございます。今、B委員からありました大会運営という支える側の力が落ちてくるというのは、やっていかないと仕方ないことなのです。その中で自分が思うのに、中学生でも十分に経験のある子どもさんたちは、支える側で力が発揮できると思うのです。そういったところもスポーツの1つなのだということで、これから調布をそういう意味での障害者スポーツのメッカにしていって、その支えるほうに中学生も入っているのだと。そんな姿もいいかなと思っております。

それから、いわゆる健常者のクラスの子どもたちと、特別支援学級の子どもさんが一緒

になって体育の活動をやるというのは、神代中などで、私もいたときに部活などを一緒にやっていた子もいるのです。周りの子どもたちが、ある面では優しくなる。意地悪なときもあるのだけれども、基本的には優しい表現で丁寧に対応してくれる。そういった人間的にも成長の場になるかなと思って聞いていました。ありがとうございました。

では、続いて、A委員から、いわゆる営業を目標としているスポーツクラブの中で、障害者スポーツとの関わりというのが私は全く分からないのですけれども、そういった現状も含めてお話を聞かせていただけますか。お願いいたします。

○A委員 お疲れさまです。スポーツクラブという立場でいくと、近年そういった問合せとか、通わせたいのですけれども、通うことは可能でしょうかとか、特にオリンピックが終わった後とかは、そういったものが増える現状があります。

スポーツクラブとしては、正直なところ、受入れに関しては難しいというか、ハードルが高いのが現状ではあるものの、メガロス当社としては、別のルートというか、通常のクラスで受入れはお断りしているのですけれども、例えば金曜日とか定休日のときに、小学校さんとかと、今、地域の運動サポートということでいろいろやっているところもあって、調布は子どもスクールが入ったのが4月からなので、そんなではないのですが、私が以前いた大和市に関しては、20年前から子どものスクールをやっている店舗で、大きな総合店だったので、そこで近隣の小学校の先生と話しした上で、金曜日に一度やった実績はあります。それは1日だけという形だったのですけれども、どちらかという、子どもたちにもそうなのですが、先生たちが水の中でどうやってサポートすればいいかという知識がなかなかないということで、その辺の知識を先生たちにお伝えしながらやったという実例はあります。そんなところですよ。

○会長 ありがとうございました。

とりあえず、一言ずつ皆さんに御発言いただいたところなのですけれども、補足の発言等々いかがでしょうか。では、B委員、お願いいたします。

○B委員 この間、特別支援学級で実際にスポーツを見ていて、ボッチャが面白そうだとか、ゴールボールをやってみたいという意見が出ていました。実際に体験でやろうとなったときに、道具を購入するための金額があまりにも高い、そこが大きな泣きどころでした。ほかの学校で持っていれば、ちょっと貸してということのできるのですけれども、道具はどこで借りることができるということを市としてオープンにしてもらえると、各学校と特別支援学級はとてもありがたいことかもしれません。ぜひ検討をよろしくお願いま

す。

○事務局　　ボッチャ道具はスポーツ振興課で貸出しを行っておりまして、市内の作業所、健全育成の団体、PTA、そういった方々が借りにいらっしゃいますので、ぜひ学校さんからも、そういった御要望をいただければ——ボッチャセットはすごい高いのです。うちにあるのは中の中ぐらいのレベルなので、本格的なものとは少し違うかもしれませんが、レクリエーションボッチャとしてはありますし、例えば教えてということであれば、スポーツ推進委員がいらっしゃいますので、ぜひ御相談いただければ。Cさん、小学生に対しての授業数をかなりやっていたらと思いますけれども、特別支援学級へのというのは、今までスポ推委としてはありましたか。

○C委員　　ええ、あります。国領の施設に行ったことがあります。

○事務局　　なので、B委員、これをぜひご活用いただければ。

○B委員　　ぜひよろしくお願いします。

○会長　　費用は無料で貸出しですね。

○事務局　　さようでございます。スポーツ推進委員の皆さんも派遣させていただいております。

○B委員　　ありがとうございます。

○事務局　　実際に私たちは、小学生の特別支援学級とは何かしら事業周知といった点でお声がけしたりということがあるのですけれども、中学校というのがあまりないものですので、ぜひB校長先生のところで、そういった経験もさせていただくというのは、ある意味、非常にいい勉強にもなるかなと思いますので、ぜひお声がけいただくとか、ゴールボールは、さすがのDさんなので、御相談的なところはばっちりですよ？

○D委員　　個人的に相談させていただければ。ここにあります東京都障害者スポーツ協会も、用具の貸出しだったり、我々スタッフが行く事業も行っていますので、よかったら相談していただければと思います。

○会長　　ありがとうございました。B委員の一言であちこちから救いの手が出てきました。ぜひ使って広げていただければと思います。

自分などが思うのに、特別支援学級の生徒だけではなく、通常の子どもたちにもパラスポーツは体育の教材として十分に使えるものになりますので、みんながみんな体育が大好きではないし、不得意な子どももだっているわけですから、そういった子どもたちの導入にしても使えるかなと思ったりしています。

それから、例えば調布特別支援学校、それからお隣ですけれども、府中のけやきの森特別支援学校、ああいったところにもかなり熟練の体育教師がいるかと思えますし、用具も空いていれば貸していただけるのではないかと思いますので、学校同士で連絡が取れるのもいいかなと思って聞いていました。ありがとうございました。

ほかはいかがでしょうか。何かございますか。

○事務局　ぜひeスポーツのことをD先生に聞いていただけますか。

○会長　分かりました。D委員、御指名です。障害者の方々にとってのeスポーツの未来像というか、優位性があるのか、あるいは害のほうが大きいのではないかとか、思いも含めてお話いただけますか。

○D委員　eスポーツについては、うちの協会としてどのようにしていくかが、正直まだ考えられていないという状況になっています。この間、年末なのですけれども、うちでチャレスポという事業を行ったのです。イベント的なものなのですけれども、そこにはパラスポーツの体験会を中心に、そういうのをやったのです。現段階では、その中でeスポーツを試しに一回やってみましたというところになります。ただ、実際に障害を持っている人たちがやるのもいいかなと個人的には思っています。

ただ、私自身もeスポーツがどういうものかというのが分からないので、これから勉強なのかなというところなんです。なので、東京都障害者スポーツ協会としても、今後の課題というか、取り組みについても考えていかなければいけないものかなというところなんです。

○会長　ありがとうございました。障害によっては、コントローラーというか、操作上の問題などもクリアしなければいけないことになってくるかもしれません。今、例えば障害を持っている子どもさんたちの中に、ゲームにのめり込んでいって問題になっているなどという話は入ってくるのでしょうか。

○D委員　そこについては正直あまりないです。パラスポーツサポートセンターというのがあるのですけれども、そこは日本財団が出資してやっていたのですが、一旦そこでゴールボールのゲームアプリを作っていたので、視覚に障害がある人でも簡単にできるというのを昔作っていたので、今はもうなくなってしまったのですけれども、そういったところがあるので、ゲーム会社の方たちも、そういった形で協力はしてくれるのだろうなとなっています。

○会長　ありがとうございました。

○C委員　味スタの施設の件ですけれども、資料を見ると、技術向上を目指すアスリー

トへの施設というのが中心的なのかなというところで、一般の方たちは平日しかというところで、そうなる私たちが手をお貸しすることが難しいので、できれば、そういったところでの枠もあればいいなという気はしました。

以上です。

○会長 それは大きなポイントになりますよね。土曜、日曜のどちらかの半日でも皆さんに普通に使えるような。

○事務局 次回の開催から、実際にスポーツ推進計画の策定スケジュールをいま一度皆様に共有させていただきながら、予算もそのときに確定していますので、来年度、私たちがどういったことを進めていくかということもお示しさせていただければと思っています。その中で、ぜひこういった視点も取り入れればとか、そういった御意見などは引き続きいただきながらやっていきたいと思っていますので、継続して障害者スポーツを審議していただければと思います。

○会長 ありがとうございます。例えば、こういう審議会では、いろいろな夢、皆さんが思っている夢をどんどん出して行って、それが全部実現はしないのでしょうけれども、こういうのができるといいよねと。

例えば今、飛田給の駅を降りました、歩道をずっと歩いていきます。スロープを上っていかなければいけない。普通、人を優先するのであれば、横断歩道を真っ直ぐつくって、フラットに行くべきだろうと私は思うのです。あそこを車が優先で行っているのではなくて、人間が普通に歩いていく、そこで車が止まる、そういった道路になるといいな思ったりもしています。これらもみんなが、誰かがどこかで言わないと、現状は絶対変わらないのだろうと思うのです。

どこまで実現かは分かりませんが、皆さんで少しでも、一歩でも進むような機会になればいいかなと思っています。

では、今日のところはここら辺でまとめになるかと思うのですが、よろしいですか。事務局、よろしいですか。

○事務局 はい、大丈夫です。

○会長 では、その他ということで、次回以降のことも含めて事務局からよろしく願いいたします。

○事務局 皆様、ありがとうございます。次回は年度末に開催したいと思っています。具体的な日付としましては、3月28、29、30、月、火、水の3日間のどこかで実施で

できればと思っています。そこで改めて皆様にまた計画の話、障害者スポーツの話等をやっ
ていただきたいと思っています。

その後、来年度も計画としては4回から5回の会議を開きながら、策定に進めていき
たいと思っておりますので、引き続きよろしく申し上げます。

○会長 ありがとうございます。確認ですけれども、今年度最後の会議として、3月
28日月曜、29日火曜、30日水曜、この3日間のいずれかで決めたいということですので、
また事務局からメール等々で連絡が行きますので、回答ができるように御準備いただけれ
ばと思います。ということでよろしいですか。

○事務局 はい。

○会長 ありがとうございます。では、本日の議事はこれで全て終了ですので、スタ
ートにお伝えしましたけれども、D委員からまとめの挨拶をお願いしたいと思います。D委
員、よろしく願いいたします。

○D委員 会議中ずっと考えていたのですけれども、なかなか出てこないのですが、先
日、東京パラリンピックの日本選手団の団長である河合さんと、車いすテニスの国枝慎吾
さん、トライアスロンの佐藤真海さんの3人がお話をしているところを聞きました。

今回の東京パラリンピックですけれども、テレビ中継とかで540時間以上放送してい
たきました。これは近年まれに見る情報量が出ました。河合団長が言っていてちょっと面
白かったのは、テレビを親子で見ている、小学生のお子さんが「車椅子買ってよ」と言っ
たらしいのです。お母さんが、よし、分かった。いいよと言ってネットで調べたら、車椅
子が50万ぐらいする。購入できなくてごめんねと謝ったという話を聞いたと言っています。

それほどテレビの力はすごいなというもありますし、国枝選手も言っていたのが、大
会の後、コロナの関係で、国内で大会が開かれていません。実際に国内で大会をやったと
きに、観客がどのぐらい入ってくれるのかが今後の焦点だと思いますし、国内のそういう
大会が大事なのではないかと言っていました。私もゴールボールに絡んではいるのですけ
れども、どれだけの人に見てもらおうかです。やっていただくためには、見ていただくこ
ろも必要です。

あと、国枝選手が言っていたのが、見たいと思われる選手に自分になりたいと言っ
ていたので、そこが今回のパラの1つになると思います。なので、来週、再来週、北京
パラがまた始まりますので、そこでまた見ていただくことが、普及のための1つになるの
ではないかと思っています。

○会長 どうもありがとうございました。貴重な情報、私たちがとても知らないような情報を聞かせていただきました。

私も去年の暮れ、別の審査会で、パラスポーツ、カヌーのモニカさん、彼女がけがをして障害者になったというのを初めて聞いたのですけれども、倒立前転の倒立をしていたときに頭から落ちた、それで脊髄を傷つけて、その後車いすになったという話を聞いて、彼女は今、筑波大に行っていて、将来は医者になるという目標を持っていらっしゃる。本当は今回で終わりにする予定だったのだけれども、メダルが取れなかったので、パリまで頑張りますという宣言をこの間してくれたので、ぜひ応援したいなと思っています。

では、各委員の方々からいろいろな思いを出していただきまして、ありがとうございました。では、先ほど言いました3月末にもう一回ございますので、予定をよろしく調整してください。

では、事務局、以上で終わりにしますが、よろしいでしょうか。最後まとめて退出をお願いしますと声をかけてください。

○スポーツ振興課長 本日は皆様、御参加いただきましてありがとうございました。前回、11月17日に対面で開催させていただきました。その後、対面で続けていけるかなと思いましたが、オミクロンでできない状況です。

先ほど入ってきた情報で言えば、コロナ対策をしっかりしているJリーグのFC東京さんも、今週の2試合を中止にするほどの陽性者が出ているという状況もございます。冒頭から先生かもございます、1万人を下回ったといったところもございますけれども、皆様、まだまだ感染には御注意いただければと思っております。

11月17日以降、本日までの間に、冒頭の説明でもありましたとおり、私たち、市民スポーツまつりであるとか、障害者スポーツ体験会、また協議体も実施させていただきました。このような内容を含めまして、次年度の計画にも結びつけていきたいと考えております。次回の3月の際には、令和4年度の事業計画などもお伝えしながら、予算がこれだけつきましたという報告もしたいと思っておりますので、ぜひともよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

○会長 ありがとうございました。

——了——